

第102回厚生科学審議会感染症部会	参考資料 3
2026(令和8)年3月11日	
第13回薬剤耐性 (AMR) に関する小委員会	資料 3 (抜粋)
2026(令和8)年3月2日	

# 薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランの進捗

## 医療分野からの報告 2025年度時点

国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター

AMR臨床リファレンスセンター

大曲 貴夫



# 「抗微生物薬適正使用の手引き」を用いたセミナー

## 2024年度

- AMR対策臨床セミナーとして、5回に分けて「抗微生物薬適正使用の手引き 第3版」の解説セミナーを実施
- 「抗微生物薬適正使用の手引き 第3版」の内容に基づき、専門外の医療者は学ぶ機会の少ない皮膚科領域の抗菌薬適正使用に関するセミナーを実施

## 2025年度

- 「抗微生物薬適正使用の手引き 第3版」の内容に基づき、「眼科」「入院患者」「急性下痢症」「かぜ（成人）」「かぜ（小児）」の各テーマについて解説セミナーを実施
- 2026年1月16日に公開された「抗微生物薬適正使用の手引き 第4版」に掲載された「歯科編」の内容を解説するセミナーを開催予定

## 2024年度

入院患者（名古屋市）	計476名
外来患者：成人（大阪市）	計188名
外来患者：小児（東京）	計151名
薬剤耐性菌①（web）	230名
薬剤耐性菌②（web）	279名
皮膚科（web）	227名

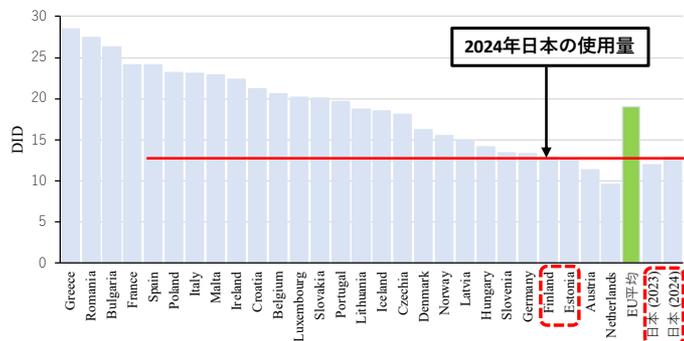
## 2025年度

眼科（web）	233名
入院患者（web）	418名
急性下痢症（web）	296名
かぜ：成人（web）	239名
かぜ：小児（web）	134名
歯科（web）	3月開催予定

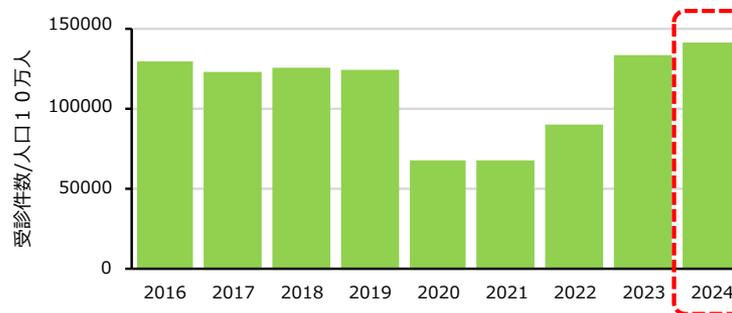
厚生労働省：薬剤耐性に関する臨床情報センター事業

# 抗菌薬使用量増加の背景として、不適正使用の増加よりも、感染症の流行状況や受診状況による影響であると考えられる

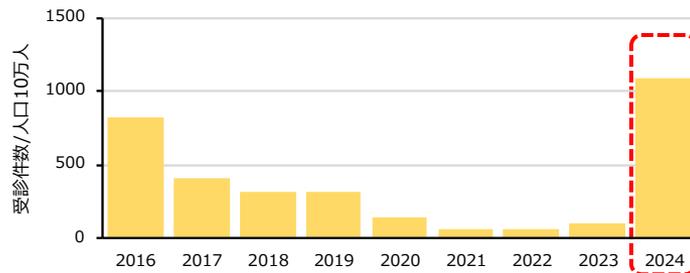
1. 欧州諸国との抗菌薬使用量比較（2023年時点）



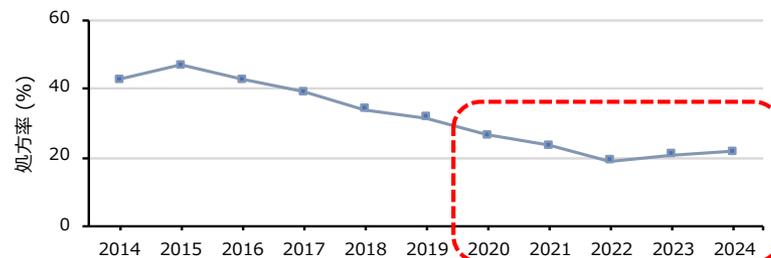
2. 急性気道感染症受診件数の推移



3. マイコプラズマ感染症の受診件数の推移



4. 急性気道感染症への抗菌薬処方率



1. 日本の抗菌薬使用量は欧州諸国と比較しても少ない
2. 急性気道感染症の受診件数は2020年・2023年と比較して増加
3. マイコプラズマ感染症の増加に伴い、マクロライド・フルオロキノロンの使用量も増加したと考えられる
4. 急性気道感染症に対する抗菌薬の処方率は、大きな増加は認められない  
→感染症の流行状況を含む、個別の診療における質の変化を評価する必要がある